

令和4年1月6日

サイバーセキュリティ関連情報（1月号）

鳥取県警察本部サイバー犯罪対策課



○ 生命保険会社をかたるフィッシングが頻発！

フィッシング対策協議会は、令和3年11月に「明治安田生命」、12月に入ってから「住友生命」、「アフラック」、「朝日生命」をそれぞれかたるフィッシング攻撃の報告が次々に寄せられているとして注意を呼びかけています。

いずれも「〇〇生命から重要なお知らせ」、「【重要】〇〇生命届出事項ご確認下さい」などの件名で偽メールが送信され、メール本文には、「セキュリティシステム更新を実施する為、届出事項を確認して頂く必要がございます」などと記載されており、本文中のリンクをクリックさせて偽サイトに誘導しようとする手口です。

誘導された偽サイトは、それぞれの保険会社のロゴマークが使用され、いずれも氏名、生年月日、登録口座、暗証番号などの個人情報の入力を求めるなど非常によく似た作りとなっており、今後、これらの生命保険会社以外にも拡大するおそれがあります。

このような不審メールを受信しても、本文中のリンクはクリックしないで下さい。仮にクリックしてしまったとしても、誘導されたサイト内で個人情報等の入力は絶対に行わず、ご契約の生命保険会社に問い合わせるなどの対応を行って下さい。

ほとんどのメールサービスでは、迷惑メールフィルターを利用できます。偽メールや迷惑メールなどの不審なメールを受信しないためにも、携帯電話会社、メールサービス管理会社に問い合わせるなどして、受信したくないメールのブロック設定などもご活用下さい。

引用 フィッシング対策協議会 <https://www.antiphishing.jp/>



○ 鳥取県内でサポート詐欺被害が連続発生！

鳥取県内では、令和3年12月19日から21日にかけて、パソコンの画面上に『ウイルス感染した』などと表示され、ウイルス除去の名目で金銭をだまし取るサポート詐欺と呼ばれる手口による詐欺被害が2件連続で発生しています。

被害の内容は、いずれもインターネット閲覧中に突然、パソコンから警告音が鳴り響き、ウイルス感染の警告画面が表示され、慌てた被害者が画面上に表示されていた電話番号に連絡してしまい、対応した片言の日本語を話す犯人が、セキュリティソフトを購入する必要があるなどと申し向け、コンビニで電子マネーカードを購入するよう指示し、カード番号を教えるよう促してだまし取るというものです。

被害にあった米子市内の50代男性のケースでは、電子マネーのカード番号を伝えた後も、犯人から「番号がエラーになっている」などと言われて、合計11回にわたって繰り返し電子マネーを購入させられ、合計100万円相当をだまし取られています。

JC3（日本サイバー犯罪対策センター）では、現在、公式サイト上の脅威情報において、JC3コラム「サポート詐欺編」を5回にわたり連載中です。最新のサポート詐欺の警告画面や警告音など数多くの具体的な事例が動画によって詳しく解説されています。

コラムの内容につきましても、一般向けに、とてもわかりやすく記載されております。

また、その他の手口に関するコラムなども連載されていますので、サポート詐欺のみならず、ネット利用の犯罪被害防止対策のために、ぜひ、一度、ご覧になって下さい。

今後、インターネットの利用はますます増加し、それに伴って、新しい手口の犯罪も増えていくことが予想されます。

特に、パソコンに警告画面が表示されたり、警告音が鳴り響くなど、普段とは異なる挙動が突然現れたような場合、慌てることなく、まずは落ち着いていただき、決して一人で判断することなく、周囲の人、または、警察にご相談下さい。

キーワードとして、電子マネーやビットコインなどの暗号資産（仮想通貨）で支払いを求められた場合はすべて詐欺という認識を強く持っていただき、犯罪被害にあわないよう、くれぐれもご注意下さい。

引用 JC3 <https://www.jc3.or.jp/>

